

# 知恵の樹

No. 210 2017.2.28

町田の図書館活動を  
すすめる会

代表：手嶋 孝典  
[tejitaka@f8.dion.ne.jp](mailto:tejitaka@f8.dion.ne.jp)

## 絵本 「宮沢賢治の鳥 Birds living in Ihatov」

国松 俊英

絵本『宮沢賢治の鳥 Birds living in Ihatov』（岩崎書店）を2月に出しました。

宮沢賢治はいつも野山を歩いている人でした。そこでいろんな動物に出会いました。それで童話や詩に動物たちをたくさん登場させています。動物の中で賢治がいちばん好きだったのは野鳥です。賢治が20歳、盛岡高等農林学校2年生の時に詠んだ短歌があります。

かくこうのまねして ひとり行きたれば  
ひとは恐れて 道をあけたり

カッコウの真似しながら道を行くと、向こうから来る人が怖そうにしてよけたという歌です。つぎは翌年の短歌です。

口笛に 応ふるをやめ 鳥はいま  
葉をひるがえす 木立に入りぬ

初夏の林で賢治は口笛を吹いて野鳥に呼びかけ、会話をしています。賢治は、野鳥と会話を交わすほど、親しくしていたのでした。

25年ほど前のこと、賢治の童話を読んでいて、野鳥の名前がとても多く出てくるのに気づきました。「よだかの星」など、作品名に鳥の名前がつけられたものがありますし、鳥が重要な役をしている作品も多くあります。読んでいって、賢治は私と同じように、野鳥観察が大好きで、鳥の世界を深く愛していることを知ってうれしくなりました。

植物、鉱物についても、天文学についても、専門家に負けないくらい知識を持っていました。同じように賢治は、野鳥についてもよく観察し、鳥の本

をよく読み、深く研究していたのです。双眼鏡や高倍率の望遠鏡がなくても、鳥の形態や動作を詳しく正確につかんでいました。その観察力には驚かされます。



賢治が生きていた大正時代、昭和初期は、まだ野鳥保護の考えはありませんでした。ふつうの人にとって、鳥は捕まえて食べるものか、籠で飼って楽しむものでしかありません。そんな時代に、賢治は鳥をやたらに捕らえて、いたぶったり、殺したりする人間を告発する童話を書いています。賢治は、人と野生の生き物が共に生きていくことを強く願っていたのです。賢治は、鳥や虫や獣などの生き物の中に、人間とおなじ生命の流れを見ていたのです。この地球に生まれたものは、すべて仲間、兄弟であると考えていたのでした。

賢治の鳥の絵を描いてくれたのは、画家の館野

鴻さんです。館野さんは、ファーブルの昆虫記を絵本で描いて知られる画家・熊田千佳慕さんの弟子です。昆虫や背景をとともきれいに描く細密画の達人です。一枚描くのにととも時間がかかりま

す。「宮沢賢治の鳥」の絵本も6年あまりかかってしまいました。

賢治の鳥の世界をどうぞ。

(会員)

## 『「本の寺子屋」が地方を創る — 塩尻市立図書館の挑戦』

(東洋出版、2016年5月刊)を読む

駒田 和幸 (投稿)

図書館が地域社会の中で果たすべき役割とは何だろう。そんな原点ともいうべき問いに立ち返って生み出されたのが、「信州しおじり本の寺子屋」である。

今では全国各地の図書館関係者が視察に訪れ、全国にその存在を知られる程となったが、その誕生に至るまでどのような経緯があったのだろう。

塩尻市の旧図書館は手狭で使い勝手があまり良くないということで、どのようにしていくべきか。この問題を検討するため、ワーキンググループが2003年に市民から公募された。21名の委員は議論を重ね、翌年に新図書館建設を望む提言書をまとめた。その提言が市の「図書館基本計画」に受け継がれることになった。一方、同じ時期、塩尻市では中心市街地活性化が検討されており、その活性化計画の中に図書館も位置づけられることになった。

かくして2010年7月、地上5階建て「塩尻市市民交流センター」が竣工した。ガラス張りの開放的な印象の建物で、その地下1・1・2階の3フロアに図書館が入る形となった。

でも、なぜ図書館が市街地活性化のための「市民交流センター」の中心的施設として入居することになったのか。それは公共施設の中で、図書館が一番、人が集まる施設という理由からであった。こうして重要な役割を担うことになった図書館の館長として招かれたのが、茨城県の鹿嶋市役所を50歳で退職して単身でやってきた内野安彦であった。

その内野のもとに文芸誌の編集長などを勤めた長田洋一が、2011年7月、ふらりとやってきた。長田は図書館を拠点に書き手と読み手をつな

げる形で、本の魅力を地域社会のなかに広げていきたいと考えており、内野も米子市の今井書店が展開していた「本の学校」に関心を持っていた。内野によれば「二時間もお話ししたでしょうか。私のほうが帰したくなくなっちゃったくらい」共鳴しあうことになったという。この出会いが「本の寺子屋」の出発点であった。

「本の寺子屋」は2012年7月にオープンした。現在は本の書き手、読み手、その間に立つ出版社・編集者・図書館・書店がそれぞればらばらで、互いに顔が見えない状態に陥っているのではないか。そのような現状認識に基づき、相互の間の交流・交歓を活性化することで本の魅力を取り戻す。そうした「知恵の交流」を深めつつ、最終的には自立した市民を育む「知の地域」を創造していこうとする。それが「本の寺子屋」の理念であった。

こうした理念に基づいて、「市民交流センター」3階にある多目的ホールを会場に、講演会や朗読会、ワークショップなどが継続的に開催されることとなった。例えば、初年度の2012年7月から翌年の3月まででは佐高信、さいとうしのぶ、谷川俊太郎など多彩なゲストが招かれており、合計15回の催しで延べ1,121人が参加したという。大事な点は、それらが単発的なイベントとしてでなく、年間計画に基づいて現在まで継続的に行われているところにある。

こうした塩尻市の図書館の取り組みを知るにつけ、町田市の図書館は、全国公立図書館約3,240館の「ワンオブゼム」であるようにも見える。確かに「公共の書斎・勉強部屋」としての機能を果たしており、それだけで十分だと議論もある。でも急激に変貌を遂げていく社会の中で

図書館の新たな役割を創造していくことが切に求められていると思うし、また、それが町田に刻まれた浪江度の偉大な足跡を受け継ぎ、発展させていくことにもなると考える。

\*『「本の寺子屋」が地方を創る—塩尻市立図書館の挑戦』(「信州しおじり本の寺子屋」研究会著、東洋出版、2016年5月刊)は、町田市立図書館で一冊所蔵しています。

## 三多摩図書館研究所研修ツアー参加報告

一宮市立中央図書館・小牧市立図書館見学、小牧市立図書館を考える会との懇談会、田井郁久雄さんの講演・シンポジウムに参加して

去る1月28日(土)、29日(日)に三多摩図書館研究所の研修ツアーが実施されたが、町田の図書館活動をすすめる会からは5人(内、「三図研」所員は1人)が参加した。

「すすめる会」の5人は、東京駅から乗車した「三図研」のメンバー5人(他に所員2人が小牧市に直行で後から参加)と新横浜で合流。名古屋駅で下車し、尾張一宮駅前ビル内にある一宮市立中央図書館を見学した。見学後、宿泊地かつ翌日の研修場所である小牧市に向かった。その日の夜は、小牧の図書館を考える会の山田さんに紹介していただいたお洒落な店で懇親会を開き、ホテルに戻ってからも交流が続いた。

翌29日(日)は、朝から小牧市立図書館に赴き、山田久館長から丁寧な説明を受けた後、館内を見学した。その後、小牧駅近くの商業ビル・ラビオまで徒歩で移動、昼は小牧の図書館を考える会が用意してくださった弁当を食べながら、同会との交流・懇談会に臨んだ。

午後は同会主催の田井郁久雄さんの講演とシンポジウムに参加。シンポジウムは、三図研の山口源治郎さん(東京学芸大学教授)の司会で進行、田井郁久雄さん、三図研の森下芳則さん(元田原市図書館長)、同じ小池信彦さん(調布市立図書館長)が登壇した。終了後、大急ぎで名古屋に戻り、帰路についた。

以上のように、かなりの強行軍ではあったが、小牧市民との交流を含め、収穫の多い研修ツアーとなった。

### 一宮市立中央図書館

28日の午後には一宮市立中央図書館を見学し、館長の代理の方の話を伺いました。尾張一宮駅の駅前ビル(i-ビル)の5、6、7階という非常に利便性のいいところに6,700㎡という広いスペースを使った図書館で、5階が児童書エリア、6階が一般書・視聴覚エリア、7階が一般書・参考図書エリアでした。

都市機能、集客機能を強化したという駅前ビルのコンセプトが図書館づくりにも強く感じられました。6、7階には学習席160席、持ち込みパソコン席20席、インターネットブースも設けられ、この日はいずれもほぼ満席。床面積がとても広く、ゆったりとした空間演出も今日的な印象を受けました。

5階の児童書エリアは、すべて低い書棚で、見やすく、たくさんの大型絵本や紙芝居が誰でも見られるように開架スペースにゆったりと並んでいて、うらやましい限りでしたが、それらの子どもの本の棚には、オーシマコーナーと名前が付いていて、企業の寄付とのことでした。一宮市は2013年に

「子ども読書のまち宣言」をしていて、「子ども読書のまち宣言」と「宣言ができるまで」と子ども向けの絵入りの宣言が貼ってありました。

ただ、この立派な中央図書館の2013年オープンの際に、朝9時から夜9時まで開館を可能にするためもあって、一部業務委託が導入されました。TRCに委託で、3年間で5億8000万円を支払い、60名の委託職員が3交代で年間320日開館しているということです。(その他の地域館はすべて市による直営)業務委託の場合は、やはり職員の異動が早いとのこと。窓口が全て委託職員となるといろいろな問題があると思われます。

(久保礼子・鈴木真佐世)



## 小牧市立図書館

小牧駅直結のホテルに宿泊した我々は、駅を背に「信長公 夢・チャレンジ街道」を歩いて小牧市立図書館へ向かいました。しばらくすると正面に小高い山が見えてきて、頂上には1563年清須から小牧に居城を移すため、信長自らが初めて手掛けたという城が見えます。

その手前に、独特なデザインに威風堂々とした趣の小牧図書館が建っていました。1969年に元市役所分室(旧愛日蚕業技術指導所)の木造建物を改修して開館、1978年に小牧市の象設計集団の設計で、3階を吹き抜けにして光路をとるといって当時最先端の機能を盛り込み、鉄筋コンクリートに全面改築した図書館です。正面のジグザグ型の壁面や入口に続く幅広の長い階段の外観に一同目を見張りました。前日見学した一宮市立中央図書館とは対照的な図書館でした。



休日にもかかわらず、山田館長が出迎えてくださり、「小牧の教育」平成28年版の「図書館」の項を資料に、東部分館、北里分館を含めた資料構成やサービスなど詳しい説明を受けました。

そして、38年経過して老朽化が進み、手狭になった図書館を新しくしようと建設を進めてきて、市長交代を機に、建設問題(小牧の図書館を考える会との交流参照)が浮上したとのことです。

本館をどこに作りなおすか、どのような形態で運営するか大きな問題となっています。現在は、直営で一部業務委託(TRC)。7人の職員が管理運営を担い、50人の委託管理の職員が日々の業務を行っています。委託の人たちは、10年くらいいる職員(3割くらい)と半年から1年で替わる若い人たちに分かれるそうです。有資格者は約6割です。



その後、館長が案内してくださった各フロアは、ちょっと“非日常”がにおう、アートな懐かしいお部屋のようでした。高い吹き抜けの中央の丸天井からは光が

差し込んで、広々と宮殿のような雰囲気が漂っています。しかし、実際にはデザイン重視のために使い勝手はいま一つのように、光路の丸屋根は傷んで雨漏りがひどく手の施しようがないとのことでした。延べ床面積は2,233㎡と狭く、2層式書庫には足の踏み場もないほど貴重な資料が山積みされていました。大量の書籍の内実がどれほど魅力的だったことか……。その質に感心させられました。

日曜日でもあったせいかどの階にも来館者がいて、所々に隠家のようにある小さな空間で、親子や、一人で読書を楽しむ人の姿、学習室として活用する中学・高校生の姿もかなり見られました。

館を出る時、手に取ったチラシの中に素敵なイベントのお知らせを見つけました。「図書館まつり・館長講座／図書館の上手な使い方—郷土資料を手がかりに—」という企画。小牧の郷土資料の紹介は土地の古老をゲストに。その日は、書庫の見学も組み込まれていました。講師は、館長です！

(久保礼子・鈴木真佐世・増山正子・丸岡和代)

## 小牧の図書館を考える会との交流

講演会の前に、ラピオを会場に「小牧の図書館を考える会」との交流会があり、住民投票に至った建設問題等をお聞きしましたが、皆さんの熱い心を感じました。若い人を前に押し出そうとの心配りも。

一般の市民の方々に伝えたいと作成されたチラシを見せていただきましたが、これまでの経緯と会の提案「私たちの描く『小牧らしさ』」がとてもわかりやすく簡潔にまとめられてあり、感心させられました。このチラシを、より多くの市民に届けたいと、今、配布人を募集中とのこと。積極的な、地に足つけた策を、見習わなければと感じたことでした。

2009年、小牧市立図書館は老朽化に伴い、運営は直営という「図書館基本計画」が策定され、一時西A街区に建設予定とされましたが、駅前開発に第3セクターで作った商業ビル・ラピオのテナントが相次いで撤退するなどから、当時の市長は、中心市街地の活性化のためにラピオ内に図書館建設を決定しました。

2011年2月に市長選が行われ、図書館政策に市民の意見を聞き長期に取り組むというマニフェストを掲げた新市長が誕生。しかし、3年を経て突

然「A 街区に武雄市モデルの図書館計画」を発表。図書館協議会、議会、教育委員会等もそれに追随し、指定管理者候補として CCC・TRC 共同事業体が選定されました。

小牧には、図書館の市民運動がなかったこともあって、図書館を何とかしたいという人たちが集まり、「小牧の図書館を考える会」を発足させました。

2015 年 2 月の市長選挙では争点に図書館問題を据えて新政権を願いましたが、残念ながら指定管理をすすめ、A 街区にツタヤ図書館を建設するという市長が再選されました。

あくまでも運営形態を直営で、町の賑わいから外れた A 街区ではなく、ラピオや現図書館を活用、市民のための図書館を、という提案を掲げて、考える会は署名活動や、議員を巻き込むなどの運動を展開。同年 10 月 4 日に「現在の新図書館建設計画に関する住民投票」を実施させ、反対票が過半数を占めました。市は新たな計画の策定に向け昨年 4 月図書館建設審議会を設置しましたが、話し合いは今だ難航しているとのことでした。

その後、名古屋に住む友人から、2 月 9 日付の県内版に載った「小牧の図書館 審議会答申」の切り抜きが送られてきました。それによると、教育長に答申した建設の基本方針には「管理運営形態と建設場所は明確には示されなかったものの、『市の主体的な運営』『名鉄小牧駅近くの A 街区への建設』の方向性を示した(朝日)、「市が責任をもって運営していくのが望ましいため市が主体的に運営するものとする、と市の直営を提案。市は答申の内容を検討し、今後の建設計画を進める(中日)とあります。市民のための図書館をと願う真つ当な運動の道程はまだまだ長いようです。

(久保礼子・増山正子)

### えほん図書館



ラピオの中にある、えほん図書館も見学。ゆったりとしたスペースに、子どもがわかりやすいグループに分けて、表紙を見せて本

が並べられているので、絵本を探しやすいように思いました。ただ、週末の割には利用者が少ない

ように感じました。ここもカウンターにいるのは皆委託の職員の方でした。(鈴木真佐世)

### 田井郁久雄さんの講演

「図書館民営化の問題と直営による運営の責任」と題する講演は、「1. 指定管理者制度をめぐる最近の動き」「2. 民営化(指定管理者制度等)は図書館を発展させていない」「3. 民営化はなぜ問題なのか」「4. 表面化する民営化の問題事例」「5. 直営による運営の責任」について持論を展開されました。

2. では「サービスは向上していない」だけでなく、「民営化のメリットはな」く、「職員体制の劣化、運営費の増大」を招く、「人件費は減少しても「経費全体はむしろ増加」することなどが語られました。

また、小牧市立図書館の「窓口委託以降の年間貸出数と図書館費の推移」を実証的に話されましたが、えほん図書館(2008 年 7 月開設)を加えても貸出しはほとんど増えていません。しかし、業務委託費は増加しています。

3. では「職員体制の劣化」「指定管理者制度は、構造的に継続的な発展が担えない仕組み」であることなどが語られました。

4. では「民営化最大手 TRC にもさまざまな問題」があることを具体的に指摘され、「民営化は一度導入すると容易には引き返すことができない」こと、『教育機関としての図書館』を、全国一律、一企業が支配することの異様さ」が語られました。

5. では「直営の図書館で、どのような運営ができるか」を岡山市立図書館の活動を例に話され、「資料提供の意義ー図書館サービスの何が大切か」「直営の図書館職員の役割と責任」についても触れられました。(手嶋孝典)



### シンポジウム

司会の山口さんが、図書館の運営方法をめぐっての住民投票について、「小牧の市民力」「ツタヤ図書館にノーを突き付けたこと」「新しい図書館を

つくる方向」を評価、質の高いサービスを支えるのは人の問題であり、利用者・市民がつくりあげていく図書館、職員と市民との関係をどう育てていくのかなどを問題提起されました。

田井さんは講演の補足として、岡山市立図書館の地域資料活動(長年にわたる新聞の切り抜き)を紹介、貸出しだけの活動ではないことを立証されました。

森下さんは「どちらがうの？図書館の直営と指定管理」というテーマで、「図書館は無料で人々が資料と情報に出会う社会的な仕組みで」あり、「人を

育て、民主的な社会を構成する要素で」あることを力説されました。

小池さんは「調布市立図書館の概要」をテーマに調布市立図書館が「“日本一”役立つ・満足できる図書館に！」を目標として活動していることを紹介されました。

山口さんはまとめとして、「いいサービスをするにはどのような人が必要か」「行政が責任を持つ体制」「市民との関係」を論点整理されました。

(手嶋孝典)

## 第 16 期図書館協議会 第 14 回定例会報告

2017年1月26日(木)午後3:00~5:00 中央図書館・中集会室 傍聴者1名

### 【報告事項】

#### 《館長報告》

1. 第4回町田市議会定例会 一般質問 熊沢あやり議員「図書館について」

1)現状、課題、今後について2)移動図書館について 再質問:小さい子ども連れでも利用しやすい図書館に。

Q:再質問の具体的な内容は⇒①児童書の寄贈の呼びかけ②児童書の難易度の表示③児童書だけを積んだ移動図書館などについて

Q:他市では書名を指定して寄贈を募るという方法も取られているが、町田市ではいかがか。⇒出版界では図書館の貸出が本の売れない原因であるという意見もあるので、書名を指定してということはないが、ランキングの掲示はしている。

#### 2. その他

・2017年度嘱託員の採用選考中:欠員補充(80名の応募)、主任嘱託員の選考:欠員補充。

・第2回町田市公共施設再編計画策定検討委員会について 館長より説明

Q:決定までに変更することはあるのか。⇒各課の意見を聞く段階は既に終わっている。

Q:さるびあ図書館及び鶴川図書館は集約を検討とあるがさるびあは移動図書館の基地であり、その機能が浮くことになるのでは。⇒当局には説明してある。集約を検討という言葉の意味には、何期にするか、機能をどのように確保するかなど取るべき手段

を模索することはできている。

Q:学校を建て直す場合、図書館を併設する考えは視野に入っているか。⇒今の状況をどうとらえるかで変わらと思うが、複合化されていない館を学校と一緒に複合化するというで数を増やすという観点はないと思う。

意見:中学校は来年から生徒が減少し空き教室も出てくるので、公共施設として利用するのはやむを得ないと感じている。図書館を併設しそれを生徒も利用できれば、学校にもメリットはあるだろう。

Q 意見:こどもの教育や生涯学習に力を入れないと若い世代が町田から離れてしまう。人口減少のスピードを食い止める工夫も大切。

・「町田市立図書館資料収集方針」の改定について:平常時の収集のための方針。以前よりコンパクト。

年度中に策定しHPで公開。広く市民の意見を求め、一定のスパンで反映させたい。

意見:蔵書構成を維持し、利用者などからの質問に答えるためにも必要。また、公開することで市民の理解を促し、さらに協力を得る可能性も。

#### 《委員長報告》

##### 1. 第5回生涯学習審議会(1月10日)

公共施設再編計画策定検討委員会の報告があった。

町田市の生涯学習のあり方について審議する上で公共施設が再編されると土俵が変わることになる。生涯学習審議会の意見も検討委員会に反映させ、でき

れば委員が検討会に参加してはと提案も出たが、難しいということだった。

## 【協議事項】

### 1. 図書館評価について

「町田市の図書館評価2015年度評価結果」に対する外部評価を提出。

### 2. その他

・団体登録を知らない保育園が多いが広報はどのようにしているか。⇒定期的に市報に掲載しているが、学校のようにはできていない。園長会に出向くなど検討したい。

・「広報まちだ」に移動図書館の日程表が載っていないが、利用者からの意見などは。⇒今までにはな

い。以前から記事の縮小の相談はあったが、月2回になったことで掲載は困難。年に何回か記事で載せる事や、他のPR方法を検討する。

・地域での様々な団体のおはなし会は開催日程の偏りがある。図書館が調整役になれないか。⇒図書館がすぐに取り組むということは難しいが、子ども読書活動推進会議で話題として出し、各課で問題を認識し全体を動かしていくことは考えられる。⇒委員:2月の会議で図書館協議会からの意見として出す。

★第16期図書館協議会第16回は4月24日(月)午前9:30～町田市立中央図書館中集会室にて、傍聴自由です。

## 講演会報告 地域資料・情報サービスの積極的な展開を考える

～住民生活と地域社会における確固たる位置付け

を占める図書館をめざすために～

去る2月11日(土・祝)、戸室幸治さん(三多摩図書館研究所所長)の講演会を中央図書館で開催した(主催:「すすめる会」、協力:町田市立図書館)。参加者は34名(内会員は13名)。以下、当日のレジュメに沿って簡単に報告する。(手嶋孝典)

1. 公共図書館の一層の発展のために: 三人の指摘、として次の各氏の主張を紹介した。① 図書館の「一層の発展のためのテコ」として(前川恒雄)、② 図書館サービスの正当な評価のために(根本彰)、③ 図書館のミッション(使命)の指摘(片山善博)。

2. 図書館とは何か: その根拠は、の問いに「図書館は、知る自由(知る権利)を社会的に保障する機関」であるとした。

3. 図書館法の規定として、第3条(図書館奉仕)の第一号(郷土資料、地方行政資料)、第三号(図書館の職員が図書館資料について十分な知識を持ち、その利用のための相談に応ずるようにすること)、第七号(時事に関する情報及び参考資料を紹介し、及び提供すること)の規定を引用し、第9条の「公の出版物の収集」の規定があることを紹介した。

4. 図書館サービスの考え方、として①図書館サービスの構造を「目的」「機能」「方法」に分けて説明、②図書館の自由とリクエストサービスの関係を明確

化し、③資料提供の徹底と資料要求の増大について、「選書と蔵書構成は、利用者と図書館員との相互作用で発展」と説いた。

5. 地域資料・情報サービスとは、で①地域資料を定義し、地域資料とともに②時事に関する資料・情報サービスの積極的な展開を求めた。③片山善博氏の「民主主義の砦としての図書館」を紹介。「地域に関する資料・情報、時事に関する資料・情報、公共政策に関する資料・情報」は、民主主義の基盤であると説いた。

6. 日野市立図書館市政図書室について①概要、②あゆみ、③理念を語った。

7. あらためて地域資料・情報サービスを考える、として①資料の特徴、②職員の専門性の評価、③直営の本質的根拠、④「市民活動資料」の提供、⑤レファレンスサービスの深化・発展の姿、⑥図書館と設立(設置)母体との関係、⑦利用者(顧客)から主権者へ、⑧公文書管理条例の制定について、⑨民主主義、立憲主義、などの論点を提示している。

今回、この講演会を企画したのは、以上概観した地域資料・情報サービスの重要性を認識したからであるが、図書館が直営を堅持するには、これらのサービスをきちんと展開することが不可欠となろう。

# ひろば

## 例会 1/24 (火) 報告

- ・16:30～№209 印刷他(清水・手嶋)
- ・18:00～20:20 中央図書館・中集会室

出席: 飯野・石井・兼田・久保・齋藤・清水・鈴木(真)・手嶋・増山・丸岡・宮・守谷・山口

### 議題

#### 1. 会報について

№210: 巻頭言、国松俊英さんに『宮沢賢治の鳥』の紹介をお願い済み。図書館協議会第13回定例会報告(清水・山口)、図書館見学会報告(参加者全員)、戸室さん講演会報告(手嶋)、としょかんまつり(齋藤) ⇒ 駒田さんから投稿あり。

#### 2. すずめる会のリーフレットの改訂について

増山、高橋が引き続き担当し、検討する。

#### 3. 今年度の活動計画について

##### 指定管理者制度導入に反対する活動

何をするか⇒○直営の魅力を伝え、またなぜ直営でなければならないのかを理解してもらえよう、継続的に活動を検討・実行していく。○図書館業務を広くPRしていく(「知恵の樹」の寄稿など)。○講演会。 ⇒ 継続

#### 4. 町田市の財政分析について

まちだ自治研究センターと2回(12/6,12/22)打ち合わせを行い、「すずめる会」と自治研究センターとの共催で、第1回目の学習会(図書館の現状報告と町田市の財政分析)を開催することになった。

学習会は、3月10日(金)午後6時から中央図書館にて開催予定。前段の図書館の現状報告は、図書館職員が担当予定。次回打ち合わせは、1月30日(月)午後6時から。守谷、手嶋出席予定。⇒ 第1回の講師は、伊藤久雄さん。図書館は2回目。

#### 5. 「次期5カ年計画行政経営改革プランの概要」について

総務省が図書館等にはトップランナー方式を適用しないことを決定したので、町田市立図書館に指定管理者制度を導入する根拠がなくなったはず。⇒ その後の情報は確認していない。さるびあ図書館、鶴川図書館、木曾山崎図書館などが廃止の対象にされている。文学館も存続が危ぶまれる。総じて生涯学習施設がないがしろにされている。

#### 6. 図書指導員謝礼の金額変更について

その後の展開について ⇒ 再度教育長との面談申込み中。

#### 7. 図書館まつりについて

スケジュール決定。「知恵の樹」№210に掲載。開催後の報告は、増山。

#### 8. 第31回団体登録利用者懇談会について

2月9日(木)午後2時～4時 忠生図書館にて開催。手嶋出席予定。他に久保、清水が出席予定。⇒ 齋藤、しょうじも出席。

#### 9. その他

利用者懇談会(個人対象)が年一回しか開催されないのはいかがなものか? 1月26日(木)の図書館協議会で発言してみてもは?

### 報告

#### 1. 第2回町田市公共施設再編計画策定検討委員会報告

議題5. で報告済み。

#### 2. 団体及び個人からの報告

・嘱託労:1月と2月に、スキルアップ講座を開催予定。六分会協議会と共催(会場を借りるため)。

・まちだ語り手の会:1月25日(土)冬のおはなし会

・かえで文庫:1月25日(土)、定例会

・柿の木文庫:2月に小学校でのおはなし会あり。

鶴川三小(1年～3年)、三輪小(低学年)

・学校図書館を考える会:3月5日(日)、子どもたちに本を知らせる方法(仮)についての勉強会

・市職労図書館六分会協議会:2月9日(木)、団体交渉予定。

・野津田 雑木林の会:1月25日(水)、市役所へ指定管理者について質問をしに行く予定。

・山口:10月12日(木)、13日(金)、日図協大会開催予定。

・守谷:2月6日(月)、野沢さん宅訪問予定。浪江渡資料の引取りについて

#### 3. その他

##### 「知恵の樹」の発行部数について

・現在、550部印刷。・市議にも配布できないか?

・次回の例会で、配布部数を精査したい。その上で必要があれば、増刷も考える。・市議には、PDF版をメール配信する方法もあるのでは?

第6回 まちだ としょかんまつり～本はともだち～ 3/24(金)～3/29(水) (27日(月)休館)

18 市民団体が実行委員会を組織し、市立図書館全館&文学館で、図書館と協働で開催!

小さいお子さんから、中高生、大人の方たちまで、楽しめる催しがいっぱいです。

詳細は、図書館等に置いてあるチラシをご覧ください!

◇町田の図書館活動をすすめる会企画イベント<25日(土)14:00～15:30 文学館2F 大会議室>  
講演会「どの本読もうかな?!」講師:広瀬恒子さん 直接会場へどうぞ!